

[平成16年度 普及に移す技術]

[普及に移す技術名] 一寸ソラマメの摘莢による3粒莢率および収量の向上

[要約] 莢長が7~8cmの時、3粒莢を1分枝あたり5莢程度となるよう摘莢することで、3粒莢率、収量ともに向上する。

[キーワード] 一寸ソラマメ、摘莢、摘花、着莢制限

[担当] 福井園試・野菜研究グループ

[連絡先] 電話 0770-32-0009 電子メール engei@kl.mmnet-ai.ne.jp

[分類] 参考

---

[背景・ねらい]

一寸ソラマメは、1莢内の粒数が品質（価格）決定要因として大変重視されている。しかし本県産一寸ソラマメの3粒莢率は約30%と低い。このため収量を低下させずに3粒莢率の向上を目的とし、着莢制限が収量・品質に及ぼす影響について検討する。

[技術の内容・特徴]

1. マルチ栽培は、無マルチ栽培より収量が20%向上する。しかし3粒莢率向上に対しての効果は少ない（表1）。
2. 摘花による着莢制限を行うことで3粒莢率は向上し、また1莢重も増加する。しかし収穫までに落花や落果により最終的な着莢数が不安定になるため収量向上に結びつかない（表2）。
3. 莢長が7~8cm時に摘莢による着莢制限を行うことで3粒莢率が向上し、収量が向上する（表3）。摘莢による着莢制限は第1着莢節位から1節に1莢残し、1分枝あたり5莢程度を残すようにする（図1）。
4. 着莢制限により収量が向上する要因として1莢重の増加が考えられる（表4）。

[技術の活用面・留意点]

1. この結果は、秋まき初夏どりの作期で栽植密度を株間40~45cm、畝間1.6mの1条植（1400株/10a）、1株6分枝仕立てとした整枝・誘引・マルチ栽培で行ったものである。
2. 摘花による着莢制限は、当該節の第1花を残すのが適当である。
3. 摘莢作業は、10a当たり80~90時間あまりを要する。

[ 具体的データ ]

表 1 マルチ栽培が収量に及ぼす影響

	3 粒莢率 %	収量 g / 株
黒マルチ	29	1030
無マルチ	33	831

表 2 摘花による着莢制限が 3 粒莢率、収量に及ぼす影響

目標着莢数 /分枝	可販着莢数 /分枝	3 粒莢率 %	収量 g / 株	非可販着莢 数 /分枝
3	3.5	49	897	-
5	4.1	45	1012	-
無処理	5.1	29	1030	3.4

表 3 摘莢による着莢制限が 3 粒莢率、収量に及ぼす影響

目標着莢数 /分枝	可販着莢数 /分枝	3 粒莢率 %	収量 g / 株	非可販着莢 数
4	4.6	52	1332	-
6	5.3	43	1359	-
無処理	6.1	30	1230	3.3

表 4 摘莢による着莢制限が、1 莢重に及ぼす影響

目標着莢数 /分枝	1 粒莢重 g / 莢	2 粒莢重 g / 莢	3 粒莢重 g / 莢
4	31.8	45.3	58.3
5	29.9	42.4	54.3
6	30.1	41.6	52.5
無処理	25.4	37.6	50.8
F検定	**	**	**



図 1 摘莢による着莢制限